

大学創立40周年記念号発刊にあたって

学 長 稲 別 正 晴

この度本学創立40周年を記念して「経済経営論集」の記念号が刊行されることは大変意義深く、また大きな喜びであります。

経済学部の研究論文発表の場として発足した「経済学論集」は、1973年度の経営学部設置により両学部を統合した論集として「経済経営論集」へと名称変更され現在に至っていますが、この間実に多くの研究成果がこの誌上において発表されてきました。

前回創立30周年記念号が刊行されたときは文学部を開設し文科系総合大学への道を力強く歩み始めた年でありました。

その後の10年間に本学では研究・教育の高度化への努力が積み重ねられ、それらは大学院の設置や社会学部における社会福祉学科の増設として実ってきました。また、1995年には大学全面移転という大事業も多くの方々の努力により無事達成されました。

とくに大学院についていえば、1993年度における経営学研究科ならびに文学研究科の修士課程（1999年度両研究科に後期博士課程開設）、そして1998年度には経済学研究科修士課程をそれぞれ開設し、さらに2000年度には社会学研究科修士課程開設の決定と急速にその体制が整備され、4学部すべてに大学院が設置されるまでに至りました。

本学におけるこのような研究・教育体制の高度化はもちろん社会の要請に応えるものでありますが、同時にそれは本学における研究活動の充実・高度化の反映でもあります。そして本学のこれまでの研究活動の発展において「経済経営論集」が果たしてきた役割は高く評価されるべきであると考えま

す。

21世紀を目前にしてわが国社会は国際化・情報化の発展の中で急速な変革を迫られています。さらに、急速に進む少子化・高齢化はわが国社会の構造改革を必須のものとしています。このような新しい社会的状況における諸課題の解決において大学などの高等教育機関が果たすべき役割は大変大きく、したがってまたその責任は重大であります。

今回の記念号を契機として「経済経営論集」が本学研究活動の重要な基盤の一つとしてますます充実発展することを念願するものであります。